

八月になると、亡きご先祖様をお迎えするお盆の準備が始まります。盆棚^{ぼんだな}をつくり、仏壇から亡き人やご先祖様のお位牌^{いはい}を移し供養をするという古来からの風習です。その棚の前で、お坊さんがお経^{たなぎょう}をあげて供養をすることを、棚経^{たなぎょう}といいます。

八月十三日には迎え火^たを焚き、盆棚を竹やほおずきなどで飾り、季節の野菜や果物、亡き人の好物^{こうぶつ}を供えてお参りをします。亡き人のことを想って共に過ごし、そして十六日に送り火を焚いて送り出します。お盆は、亡き人やご先祖様への想いを忘れずに行う、大事な行事です。

まれに、「私には先祖がいません」と言う方がいます。先祖は実家がみているから、先祖は菩提寺^{えいたいくよう}で永代供養^{えいたいくよう}してもらっているから、などの理由のようです。しかし、先祖供養は、お墓やお位牌などの管理を誰がしているかという問題なのではありません。

生まれて来た限り、必ず両親がいて 祖父母^{そふ}がいて 曾祖父母^{そうそふ}がいて……と、先祖がいない人はいないのです。盆棚を飾ったりお墓参りをしたりしながら、今、自分が先祖のお蔭で生かされていることに気づき、感謝をし、さらに真心から供養をする。そして、お子さんやお孫さんたちと共に行い、供養の心^{こうせい}を後世^{こうせい}に引き継いでいくことこそが、私たち一人ひとりの大切な修業^{しゅぎょう}行となるのです。

近頃インターネットには、お墓参りを代行する業者の広告が見られます。内容は、業者や代金によって異なりますが、「お墓掃除はするが、お参りはしない」というものや、「掃除からお参りまですべて行う」というものまであるようです。

利用する方は、例えば、病気で入院をしている方や、海外で仕事をしていて帰省できない方など、さまざまな事情でやむを得ずという方も多いでしょう。それで気持ちが少しでも安心するのならば、一概^{いちがい}に否定はできません。

しかし、「遊びに行くから」などという自分中心の自分勝手な理由でお墓参りを代行して貰うのならば、亡き方やご先祖様を思う大切な機会を自らで失ってしまうことになるのです。

ご家族揃ってお墓参りをし、自らの手でご先祖様のお墓の掃除をし、お花や供物を供え、静かに手を合わせ、亡き人やご先祖様に想いを馳^はせてみてはいかがでしょうか。

お盆とは、ご先祖様と自分自身が向き合う大切な時間なのです。